

氏名 和 氣 義 弘

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 乙 第 1112 号

学 位 授 与 の 目 付 昭和 55 年 6 月 30 日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者
(学位規則第 5 条第 2 項該当)

学 位 論 文 題 目 本態性高血圧症の心エコー図

論 文 審 査 委 員 教授 木村 郁郎 教授 大藤 眞 教授 寺本 滋

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

本態性高血圧症 123 例を対象として、心エコー図、心電図、心音図、頸動脈波を記録し、健常者を対照として比較検討した。

本態性高血圧症では、心電図に明らかな変化のみられない時期から心室中隔、左室後壁厚の増加がみられ、とくに心電図上 ST・T 変化のみられる例では心室中隔厚の増加が著明であった。即ち非対称性中隔肥厚がみられた。

左心室径は左室肥大の重症度に比例して拡大を示し、更に駆出分画、平均左室内周収縮速度が低下し、左心機能の低下が考えられた。

更に僧帽弁拡張期後退速度も低下し、A/E 比の増大と併せて、左心室の Compliance の低下が考えられた。

左房径、大動脈径も本態性高血圧症の早期より拡大がみられ、心電図の左房拡大型 P の認められない例でも左房径の拡大を示すものがあった。

左室肥大心電図の QRS 棘波の高電位は心室筋の肥大に関連し、ST・T の変化は、心室中隔などの局所的な肥厚と関係があると考えられた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は本態性高血圧症における心エコー図について臨床的に研究したものであるが、従来十分確立されていなかった本態性高血圧症の心の変化について、とくにその早期の変化について重要な知見をえたものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位をうる資格があると認める。